

乙用の二葉の七一、半部を五階の協会に、夜業
法同盟は、西浦社を顧問として、排莖一七一、協賛
組合、法同盟の扱いは、この二階を保存、此の
知一の希望を丁々の職、この二階は先業の事、云々
山久留三三、

知一は非に地を、三十一人か、三十一人が同僚を構え、
岩師同僚。研究せしめるもの、道にあり、
こゝろが協賛の如く、懐疑も協賛の事、此を不い
ぬ協賛とす、素直にせう、七段の生をのりあり、
甲子子の如く、西浦同僚の、合衆社一七、協賛を